

江戸の日蓮宗の年中行事（三）

「東都歳時記」・「武江年表」にみられる縁日・開帳・祈願を中心に

望 月 真 澄

はじめに

江戸時代から明治時代初頭の江戸市域における年中行事は、江戸の町名主齊藤月岑が記した「東都歳時記」・「武江年表」そして「江戸名所図会」によって描かれ、江戸の人々に行事の有様が出版物を通じて知られるところとなった。江戸に住む人々は、ここに記された神仏に関する出来事を参照することにより、各地域の寺院に勧請される靈験ある神仏の縁日に参詣し、そのご利益を頂戴していた。これらの史料の中でも、日蓮宗に関する事項は既に「棲神」六六号において「東都歳時記」を、「身延論叢」三号において「武江年表」を、それぞれ史料紹介した。前者は、正月一日から大晦日までの毎日の江戸における年中行事を記したものであり、これに対し、後者は江戸の年中行事を編年的に記したものである。この両者の史料の記載を併せて考えることにより、時代という縦の線と月日という横の線がみえてくる。そこで、まず「東都歳時記」について勧請仏の観点から分類し、次に「武江年表」に記載された勧

江戸の日蓮宗の年中行事（三）（望月）

請仏の傾向を検討してみる。次に、両史料にみられる江戸の年中行事の中における縁日・開帳・祈願を中心にして祖師日蓮¹や守護神の行事の性格について、時代の流れの中で捉え直してみたいと思う。

具体的には、両史料「東都歳時記」・「武江年表」の記載から勧請仏の性格を明らかにする。次に江戸の代表的な地誌類であり、日蓮宗寺院の年中行事を知る格好の史料といえる「江戸名所図会」や「遊歴雜記」等の史料から、代表的・地域的・宗派的な側面を考へ合わせて検討していくことにしたい。

なお、最後に付表として、「東都歳時記」にみられる日蓮宗の神仏別の祭礼・開帳・祈願の行事を紹介した。

一 「東都歳時記」にみられる日蓮宗の神仏

「東都歳時記」は、江戸の各地域の信仰習俗が描かれている重要な史料であり、これに関しては前述したごとく既に史料紹介した。そこで、この書から当時の日蓮宗における年中行事の実態とその特色を検討してみることにはしたい。同書は天保三年（一八三二）に刊行され、江戸後期の神仏や寺院の行事が如実に記されているが、既に先学の研究成果がある²。その分類では、

- 1 一年に一回 日が決まって行なうもの
- 2 毎月日が決まって行なうもの
- 3 干支で決まって行なうもの
- 4 不定期的に行なうもの

といった区別がなされているが、本稿では行事の主体となる勧請仏から新たな分類を試みてみると、

一 釈尊や浄行菩薩・普賢菩薩といった法華經にみられる菩薩

二 祖師・日朝といった日蓮宗の先師

三 妙見菩薩・毘沙門天・鬼子母神・七面大明神・清正公・稻荷大明神・七福神

と三つに大きく分けられる。さらに、本論展開の上では、次のように、(a) 釈尊、(b) 法華經の菩薩、(c) 祖師、(d) 日蓮宗の先師、(e) 守護神、(f) その他、といった六つの類型化を試みてみたい。それぞれの勧請仏は、祭礼・縁日・開帳・祈願といった行事を中心に、江戸に住む人々の礼拝の対象となっている。そこで、この六つの分類から年中行事の性格を考えてみることにしよう。

(a) 釈尊関係行事には、四月八日の灌仏会があるが、これは釈尊の誕生を祝う行事で宗派を問わない仏教行事として定着しているものである。

(b) 法華經の菩薩としては、押上春慶寺の普賢菩薩と深川浄心寺の上行菩薩参詣の行事があげられる。普賢菩薩は「妙法蓮華經普賢菩薩勸発品第二十八」に説かれる菩薩であり、「普賢菩薩開帳 千巻普賢菩薩品執行 講中祈祷あり」と講中が参加して、祈祷を行ない、「正五九二十四日は、十部經執事祭礼にて、開帳あり」と正五、九の月には祭礼を行なって賑わっていたことがわかる。

(c) 祖師関係の行事は、誕生会・御難会・お会式といった行事が中心で、誕生・涅槃そして、四大法難の中でも代表的な法難である竜口法難会が諸寺院で行なわれていたことがわかる。そして、高田本松寺では、願満祖師のほうろく加持が六月土用中の丑の日に行なわれ、「逆上頭痛の祈祷なり」と頭痛平癒の現世利益の加持祈祷が行なわれていたことが知られる。また、祖師の御更衣の行事が年に一度か二度行なわれるが、これは夏衣と

冬衣を替える時節に行なう行事である。

(d) 先師の行事は、日什の遠忌法要といった先師の遺徳を偲んだ行事があるが、日朝の命日の二十五日、日親の命日十七日に毎月先師の像を開帳するといったことが行なわれ、中でも谷中妙福寺では、日親像の開帳が行われていたことが知られる。芝金杉正傳寺の場合をみると、境内には日親堂があったが、十七日には題目講説法とあり、縁日に多くの講中の参詣があり、日親堂において開帳折願が行なわれていたと考えられる。

(e) 守護神の行事の中では、星祭り、子祭り、祭礼、開帳、鬼子母神御更衣式といった行事がみられるが、これらの中でも、星祭り、子祭り、鬼子母神御更衣式といった行事は、冬至・節分といったように、季節の節目に行なう行事である。特に、雑司ヶ谷鬼子母神堂での節分の行事には、「今夜院主衆僧内陣に於て陀羅尼を誦すと祈禱を行い、「十三巻に至て番頭尊前の供豆を拝殿のさかひの障子の穴より打出す。参詣の男女これを拾ひて守りとす。この豆を懐中なす時は、不時の怪我過ちを除き、又は疫病を避るとて大に尊信せり。」と、その場にてまかれる豆の功德を説き、疫病除けといったこともうたっていることが特徴といえる。また、「浅草幸龍寺清正公社より開運のまもりを出す。」と浅草幸龍寺の守護神である清正公では、開運や厄除けといったご利益を強調していたことがわかる。

(f) 神仏にあてはまらない行事で、年中行事として日蓮宗寺院で行なわれる法華経読誦会や千部会といった行事がある。それ以外の行事には、節分・千部会・施餓鬼会・放生会・虫払いといった行事があげられる。それぞれ各宗派で行われているが、日蓮宗の宗派的な行事としての特徴は、千部会にあるが、これは法華経読誦会が定着して、法華千部会として江戸時代に定着し、年中行事化したものである¹⁾。この法華千部会は、下谷宗延

寺では三月十三日から二十二日の期間に修されている。「この間開帳」とあるが、これは宗延寺の代表的勧請仏である祖師と考えられる。牛込幸國寺では、二月十二日から二十一日まで千部会を行ない、九日説法、十六日誕生会、二十二日施餓鬼と祖師の誕生に合わせて千部会の行事を行なっている。池上本門寺でも三月十九日から二十八日まで行なわれ、「開帳・音楽」と祖師の開帳を併せて厳修していることが特徴である。これらの行事は、主に二月から三月の春の時期に行なわれることから、春の千部、秋のお会式といわれ、池上本門寺では現在も二大行事として定着している。

これにより、それぞれの勧請仏の特徴がわかるが、先学の分類による3の干支によって決まって行なう行事と、4の日が不定の行事は、守護神のみの記載になっている。このことから守護神の行事は、干支や暦と深い関係にあることがわかる。

以上の(a)から(f)の分類を踏まえた上で、これらの神仏を祭礼・開帳・祈願に区別して考察してみると付表のようになる。これらは、それぞれの神仏共に重複している内容もあるが、それぞれの神仏と行事との関係をみていくために掲げた。ここから行事としての特色を神仏ごとに見ていくと、正月・五月・九月といった祈願月に限った行事がみられることがあげられる。これを掲げてみると、次の表1のようになる。

ここに掲げた神仏の縁日は決まっているが、普賢菩薩といった法華経の菩薩、日親といった先師や日蓮宗の代表的な守護神である鬼子母神・七面大明神・妙見菩薩・清正公、そして流行神である癒守稲荷・柏原明神が正月・五月・九月の縁日に、それぞれ祈願の中で千巻陀羅尼や千巻普賢品を行なっていたことがわかる。この行事は、千、万といった多くの数の経典を誦誦して祈禱を行なう行事であるが、そこに参詣した人々はその場の宗教的雰囲気に入り、「南

表1 正五九の行事一覧

緑日	神仏名	寺院名	備考
1日	妙見大菩薩	本所法性寺	開帳
	普賢菩薩	押上春慶寺	開帳、千卷普賢品、十部経執事祭礼
	鬼子母神	目黒正覚寺	千卷陀羅尼修行
13日	祖師	雑司ヶ谷宝城寺	内拝
15日	妙見菩薩	本所法性寺	開帳
	太神宮	牛込長明寺	
17日	日親	谷中妙福寺	開帳
18日	鬼子母神	目黒正覚去	千卷陀羅尼修行
19日	七面大明神	本所最教寺	千卷陀羅尼修行
	七面大明神	浅草正覚寺	千卷陀羅尼修行、23日まで説法
	七面大明神	高田亮朝院	千卷陀羅尼修行、開帳説法
	柏原明神	浅草幸龍寺	開帳、千卷陀羅尼
21日	秋山白雲靈神	浅草本性寺	開帳、20・21日は千卷陀羅尼修行
22日	妙寿寺稲荷	猿江妙寿寺	開帳、千卷陀羅尼
	熊谷稲荷	浅草法養寺	
	瘡守稲荷	谷中大円寺	千卷陀羅尼、説法・内拝
24日	普賢菩薩	本所春慶寺	十部経祭礼、開帳
	清正公	白金覚林寺	参詣、千卷陀羅尼修行

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

(出典)【東都歳時記】

無妙法蓮華経」の題目を唱えて神仏に祈願していたのである。中には、「題目講」といった講中を組織し、江戸各地のこれらの神仏にお参りする人々もいたと考えられる。

次に、江戸における日蓮宗の守護神に関して江戸時代の日記や地誌類からその性格を検討してみよう。「遊歴雜記」には、「都て日蓮宗に勧請するものは、能世上天行せる事を致すは去迎は奇妙といふべし。例せば中古碑文谷の仁王、堀之内の祖師、善国寺の毘沙門、高田願満の祖師、下谷上野町徳大寺の摩利支天、どぶ店の祖師、宗柏寺の釈迦、押上の妙見尊、入谷の鬼子母神、三崎の瘡守稲荷、雑司ヶ谷の鬼子母神、芝股村の帝釈天、長国寺の鷲大明神、下谷妙音寺の

表2 江戸の流行神

神 仏 名	勧 請 寺 院	勧 請 年	ご 利 益
熊谷稻荷	浅草本法寺	寛文年中	盗賊・盗難除
普賢菩薩	押上春慶寺	寛文年中	
鷲明神	雑司ヶ谷鬼子母神	正徳2年(1712)	瘡瘡守護
人頭明神	谷中本光寺	延享3年(1746)	頭痛守護
秋山自雲靈神	浅草本性寺	宝暦13年(1763)	痔
瘡守稻荷	谷中大圓院	享和年間	腫れ物一切、腰より下の病

(出典)『東都歳時記』

弁天、延命院の七面明神の類みな日蓮宗の僧徒勧請せしが、おのおの天行て縁日には門前市をなして繁昌す。」と江戸時代に流行った祖師や守護神が登場してくることがこの時代の特徴として捉えている。

こうした中でも、日蓮宗の代表的な守護神である妙見菩薩・毘沙門天・鬼子母神・七面大明神はそれぞれ縁日が決まっており、『東都歳時記』に登場してくる人頭明神・秋山自雲靈神・熊谷稻荷といった守護神は江戸時代にあらたに出現してきた守護神である。また、碑文谷法華寺の仁王門は「天明七、八年のころより、碑文谷法華寺の仁王尊諸願成就するよしにて、貴賤男女参詣することあり、次第に群集夥しかりしが、十二年ばかりにして絶えたり」と江戸の庶民が参詣していた仁王像も天明年間に信仰を集めたが、いつぞとなく廃れてしまっている。七福神については「近頃正月初出に、七福神参りといふこと始まりて遊人多く参詣することなれり」とあり、享和年間に始まっていたと考えられるが、七福神の七体は、各宗派にわたってお祀りされており、宗派性はみられなかった。

次に、江戸時代に流行った日蓮宗の守護神をあげてみると、表2のようになる。それぞれ江戸時代に勧請されたものであるが、人頭明神は頭痛守護、鷲明神は瘡瘡守護、瘡守稻荷は数ある稻荷大明神の中でも、腫れ物一切の御利益が

あるとして江戸の人々の信仰をあつめた守護神である。また、毎月二十一日縁日の秋山白雲靈神(浅草山谷町本性寺内)と毎月二十二日縁日の熊谷稻荷社(浅草本法寺内)は、江戸時代になって勧請されたものであり、あらたな流行神が守護神として勧請されてくるのが特徴的である。⁶⁾ 祖師と守護神の信仰は、堀ノ内妙法寺の祖師と雑司ヶ谷鬼子母神の場合を比較してみると、「扱今堀の内はんじょう料理茶屋軒を並べて賑ひける。雑司が谷鬼子母神はいつとなく寂しく成て、大なる茶屋どももつぶれて、堀のうちへ引移れり。神も仏も一たびは栄へ、一度は衰ふる世の理をしらしめんための御方便なりとぞ。いよいよ信仰せざる人のなしかや。」と、雑司ヶ谷鬼子母神の信仰が薄れて堀ノ内妙法寺の祖師像に庶民の信仰が移っていったとしている。⁷⁾ また、祖師も恒常的な信仰があるわけではなく、「此願満の祖師流行て、参詣夥しく繁昌せしかど、近年大に寂れて参詣稀に、寺甚さびしく、境内草生じ塵芥を掃清めざるはあさましとやいはん、総て世上にはやるものは必しもさびれて、後に願るものなきは人情の常也、是元來実事ならざるがゆへ也、見よ見よ、中古には古河の弘法水、碑文谷の仁王尊、近頃には下谷の太郎稻荷、池袋村の天神など、一旦は人の山をなして流行りしかど、発端山司の所為ゆへ、今大に靡れて、更にかえり見るものなし、繁花の風土は人ごころ移りやすく、殊更浮気もの多しとはいへど、兎角はやらすして且さびれざる社、仏神の威徳貴き事ならんかし」と、高田の願満祖師が流行った時期もあったが、今は寂れていることが記されている。よって、信仰面においては、祖師も守護神も関係なく、江戸の人々の信仰心は移り気であったといえる。

鷲明神の縁起をみると、「祭礼瓊々杵尊とかや本地は十羅刹女神の弟皁諦女といふ者にて疱瘡の疫神として出雲の国神部郡鷲の浦といふ処にありしが正徳二壬辰のとし松平出羽守の嫡男疱瘡の利此神わが国の大守見捨がたくや思ひけん、雲州鷲浦より影現じ来りて疱瘡を守護し、猶人に託して鬼子母神の傍に崇むべしとの旨に任せ、境内に勧請せ

しより縁起にみゆ、神体といふもの玉に類せる礫なりとなん」と、正徳二年（一七二二）に疱瘡疫神として出雲にあつた話から、江戸に登場して鬼子母神の側に勧請されて新たに守護神となつたものである。

秋山自雲靈神の場合をみると、浅草山谷町法性寺に勧請されていたが、「当寺に痔仏と号するもの門内の左にありて、児女小人の類歩を運び、痔疾に悩める者祈願するに靈験いちじるしと巷談す。いかにもその小祠の前に心心ささげし幡は何十本と数を知らず。何といふ仏の痔疾を平穩なさしめらるるやと疑念なきにあらず。（中略）常に日蓮宗を信じ読経題目の口称も又怠る事なし。しかるに三十八歳の頃より痔疾を悩み、衆医手を尽くせども（中略）さればもろもろの仏神へ大誓願を發して、死後痔疾を憂ふる人を必ず救ひたしと、今は唯日夜此事のみを願ふ。我七ヶ年の間此難病を請て世の人の病を推察せり。死後必ず此詞を疑ふまじと申せしとなん。果たして終に延享元年甲子年九月二十一日誦經して死し、則ち当寺へ葬り法名秋山自雲と号す。」と痔疾に悩む人を救う守護神として浅草に出現することになつた。そして、「その後何某痔疾に悩む事三年、医療しるしなく既に死に向とす。時に古朋友なるが故に、自雲の祠を思い出し、頻に信願を發し念ぜしに、さしもの大病二月を過ずして平癒す。是より誰いふとなく世上に流布して、遠近の貴賤歩を運びて、痔疾全快の祈願をいたすに悉くその利益ありとかたりけり」と秋山自雲靈神は流行神化して、そのご利益は次第に広まり、江戸近郊にも及んでいたことがわかる。

こうした守護神のご利益について、浅草本法寺内に勧請される熊谷稻荷の場合をみると、「十一月晦日 浅草本法寺熊谷稻荷眷族祭 十二月朔日より火除の神符をいだす」とある。神符については「此稻荷の宮より守り札出るなり、則毎年九月二十五日より札の切手を出し、極月朔日よりお札を出す、此まもり札を門戸又は家内にはりおく時は、盗難をさぐる事うたがひなし、又懐になし首にかけ、信心するときは道中劍難盜賊のなんにあふことかつてなし」と毎

年決まった日に切手や守り札を出すといったことにみられるように、御札・御守による現世利益が強調されていたのである。

一一 「武江年表」にみられる日蓮宗の神仏

「武江年表」によると、古い記載は天正十八年(一五九〇)からで、最後は明治六年(一八七三)までである。この史料は、各宗派の年中行事や神仏を年代ごとに捉えることができる。ここでは、本稿の目的とする日蓮宗という宗

表3 居開帳の神仏

神 仏 名	寺 院 名	備 考
祖師	谷中長運寺 二本榎承教寺 丸山浄心寺 谷中本寿寺	鬼子母神と
七面大明神	芝田珠寺 大久保法善寺 駒込浩妙寺	
不動尊	谷中妙林寺	
毘沙門天	高田感通寺 谷中感應寺	
大黒天	谷中大円寺 麻布大法寺	
鬼子母神	日暮里妙隆寺 谷中宗林寺 谷中長運寺 千駄ヶ谷仙寿院 目黒正覚寺 牛込円福寺	祖師・天満宮と 祖師と 布引祖師と
子安鬼子母神 天満宮	谷中一乗寺 谷中宗林寺	祖師・鬼子母神と
普賢菩薩	押上春慶寺	
妙見菩薩 弁財天	浅草妙音寺 浅草妙音寺	
摩利支天	下谷徳大寺	
稲荷大明神	下谷正法院	
宇賀弁財天	谷中養泉寺	
浄行菩薩	深川浄心寺	

(出典)「武江年表」

派の中で検討してみると、その記載はほとんどが祖師や守護神の開帳であることがわかる。そこで、祖師や守護神の開帳を居開帳と出開帳に区別して検討してみたい。¹⁵⁾まず、居開帳についてみると、表3のようになる。

これによると、祖師や妙見菩薩・毘沙門天・鬼子母神・七面大明神・摩利支天・稲荷大明神・帝釈天・二天王・弁財天・宇賀弁財天といった守護神、そして釈迦や浄行菩薩・普賢菩薩といった法華経の菩薩の開帳である。特に守護神は、七面大明神や・鬼子母神といった日蓮宗独自のものの他にも、各宗派共通に祀られる毘沙門天・大黒天・摩利支天・稲荷大明神・不動尊といったものまでみられる。中でも谷中宗林寺の鬼子母神は、祖師・天満宮と、牛込圓福寺の鬼子母神は布引祖師といった具合で、祖師と併せて開帳されているものもあつたが、ほとんどは守護神のみの居開帳であつたといえる。そして、祖師も単独で居開帳されるものが多かつたのである。そこで、出開帳の神仏をみると表4のようになる。これを見ると、身延奥の院の鬼子母神から、京都勝光寺の妙見菩薩・子安鬼子母神、京都本圀寺の清正公、頂妙寺の二天像といった関西方面の守護神が出開帳されているのが特徴である。場所も、芝・深川・浅草・押上といった寺院の多い地域において神仏が出開帳されているわけである。身延山久遠寺や奥の院の祖師の出開帳に併せて七面大明神といった守護神が出開帳されていることも着目される。日蓮宗の出開帳としては、圧倒的に祖師が多かつたが、これも祖師のみの出開帳ではなく、その寺の代表的な守護神も持ち出しているのが特徴である。例えば京都本圀寺では、祖師・釈尊・大黒天・清正公といったように、出開帳寺院の主な勧請仏が出されているのである。

他にも、深川浄心寺における嘉永二年（一八四九）の身延山奥の院祖師出開帳と安政二年（一八五七）の久遠寺古仏堂祖師の出開帳は、祖師だけではなく七面大明神やその他の守護神が出開帳されている。¹⁶⁾これは、「此の時朝未明

表4 出開帳の神仏

神 仏 名	開 帳 寺 院	出開帳寺院	備 考
釈 尊	京都本圀寺	本所法恩寺	
祖 師	甲州経王寺 身延山奥の院 京都本圀寺 小田原浄永寺 池上本門寺 比叡山聖運寺 駿河蓮永寺 京都実相寺 相州妙伝寺 相州円教寺 安房鏡忍寺 甲州経王寺 塚原根本寺 安房誕生寺 相州竜口寺 豆州妙法華寺 中山法華経寺 中山奥の院	下谷法養寺 深川浄心寺 押上法恩寺 深川浄心寺 下谷法養寺 浅草妙音寺 浅草妙音寺 牛込経王寺 牛込円福寺 雑司谷本納寺 浅草本法寺 下谷法養寺 浅草□□□ 牛込妙円寺 浅草本法寺 谷中妙法寺 谷中妙法寺 浅草本蔵寺	鬼子母神・七面大明神と 大黒天・踏女・釈尊・清正公と 旅立祖師 雨乞日蓮聖人像 鬼子母神内拝あり
鬼子母神	千住日慶寺 中山智泉院 中山法華経寺 身延奥の院 京都勝光寺	芝円珠寺 芝正伝寺 牛込円福寺 深川浄心寺 深川浄心寺	祖師・七面大明神と 妙見菩薩と
子安鬼子母神	京都勝光寺	深川浄心寺	
大黒天	京都本圀寺	押上法恩寺	祖師・釈尊・清正公と
二天	京都頂妙寺	浅草大泉寺	中山法華経寺奥の院祖師と
七面大明神	小田原浄永寺 身延山久遠寺 身延山奥の院	深川浄心寺 深川浄心寺 深川浄心寺	祖師と 祖師と 祖師・鬼子母神と
帝釈天	柴又題経寺	浅草本蔵寺	板本尊を開帳
妙見菩薩	京都勝光寺	深川浄心寺	天拝朝日の妙見菩薩で子安鬼子母神と
清正公	京都本圀寺	押上法恩寺	祖師・釈尊・大黒天と

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

(出典)『武江年表』

(注) □は判読不明な箇所

より、深川開帳場へ朝参り、太鼓打ちならしてねりゆく。八月七日に至り之を禁ぜらる」といった具合で、講中が万灯を持ち、同じ衣装で団扇太鼓を打ち、お題目を唱えて練り歩くとといった賑やかな様子が記され、これは禁止されるに至っている。

こうした守護神も、明治時代に入ると名称に変化がみられる。「武江年表」の明治三年の項をみると、「谷中大円寺瘡守稻荷本堂へ移し、薬王菩薩と号す。浅草八軒寺町本法寺熊谷稻荷も普賢菩薩と改む」とあり、瘡守稻荷や熊谷稻荷といった流行神は明治政府の神仏分離政策により、神と仏に分けられ、守護神は仏教の菩薩と名称を変えて寺院にとどまることになった。同史料の明治五年の項には、「三月朔日より晦日迄深川浄心寺祖師七面菩薩開帳」と身延山の七面大明神も出開帳の折に菩薩といった名称になり、これによって開帳が許されている具合であった。

まとめにかえて

以上、「東都歳時記」、「武江年表」における日蓮宗関係年中行事の記載を中心に、釈尊、法華経の菩薩、祖師、日蓮宗の先師、守護神、その他に区別して、それぞれの勤請仏と行事の関係、そしてその神仏や行事の特徴について考察してきた。

その中で、それぞれの神仏を年中行事の性格の上からまとめてみると、釈尊の行事にあてはまるものとして灌仏会、祖師の行事にあてはまるものとして、御難会・お会式・御更衣式・加持祈祷会・開帳、日蓮宗の先師にあてはまるものとして、開山忌・開帳・正五九月の祈祷、守護神の行事にあてはまるものとして節分・星祭り・子祭り・祭礼・正五九月の祈祷・開帳・鬼子母神御更衣式、それ以外のものとして千部会・施餓鬼会・放生会・虫払いといった行事に

分類することができた。特に祖師・日朝・日親、普賢菩薩・淨行菩薩、守護神といった勧請仏は、開帳日や縁日は年に一度か数回か決まっていたようである。その中でも祖師と守護神は、祭礼・縁日・開帳・祈願といった行事が年中行事の記載の主なものであった。祖師も厄除けや安産守護や諸願成就といった個人のご利益を強調した祖師像が台頭し、江戸の随筆や地誌類や祖師像縁起にも現世利益の内容が反映されてくるのである。また、流行り病が流行した時代の中で、それを平癒する願望として、新たに流行神としての守護神が浅草・谷中地域を中心として出現した。これらの神仏に対する祈願内容は疱瘡の守護や痔疾の平癒といった各家族や個人単位の祈願を充たすものであった。よってこの流行神の出現してくる江戸時代後期には、講中といった集団の祈願のみならず家族や個人の祈願が増加し、その対象となる神仏が増えていったのである。従来の神仏も信仰を集めるために流行神としての要素を兼ね備えるようになり、広く庶民の個々の願いを受け入れるようになっていった。さらに、これらの神仏は日蓮宗独特の修法祈祷に代表されるような加持祈祷と結びつき、庶民の信仰を集めるようになっていったと考えられる。しかし、これも明治初年の神仏分離政策により神像と仏像は区別され、寺院の中に祀られる守護神はその存続のためか、名称の変化を余儀なくされていったのである。

今後は、江戸時代の祖師・守護神の縁起におけるそれぞれの神仏のご利益の特徴と、日蓮宗で盛んとなる加持祈祷との関係について検討し、江戸の祖師信仰や守護神信仰の特徴について更に論究していきたい。

註

(一) 以下、祖師は日蓮宗の開祖日蓮を指すこととする。

- (2) 江戸の宗教・仏教宗派を問わない年中行事に関しては、中尾堯「関東日蓮教団の動向」江戸の日蓮宗の年中行事をめぐって」(宮崎英修編「近世法華仏教の展開」所収)北村行遠「江戸の年中行事」(立正大学文学部公開講座録「江戸町の風光」所収)で分析され、紹介されている。本稿はそれぞれの寺院・守護神の詳細について分析を行なうため、神仏ごとの紹介を試みた。
- (3) 「東都歳時記」(東洋文庫本)。以下、特に注記しない限り、同史料とする。
- (4) 拙稿「日蓮宗における儀礼行事の近世的展開」法華経読誦会の年中行事化をめぐって」(立正大学大学院「仏教学論集」一七号)
- (5) 「遊歴雑記」三編上(内閣文庫本)
- (6) 「武江年表」(東洋文庫本)。「江戸名所図会」(角川書店本)の法華寺仁王門の頁にも同じ内容の説明がある。
- (7) 「享和雜記」(国会図書館本)
- (8) 宮田登著「近世の流行神」。これには江戸で流行った守護神が紹介されている。
- (9) 「梅翁隨筆」(「日本隨筆大成」第二期第五卷所収)
- (10) 冠賢一「近世江戸における鬼子母神信仰」(「日本宗教史叢書9鬼子母神信仰」所収)では、「流行仏とは流行り廃りがあるので江戸の日蓮宗の諸寺に安置する守護神も同じであった」としており、庶民の信仰が移っていったとしている。
- (11) 「遊歴雜記」五編上
- (12) 「遊歴雜記」五編中
- (13) 右同、三編上
- (14) 右同、三編上
- (15) 「願掛重宝記」(静嘉堂文庫本)
- (16) 冠賢一氏前掲論文では、江戸における祖師と守護神の関係において「日蓮宗における開帳仏の中で圧倒的に多いのが祖師像であり、次いで鬼子母神、七面大明神といった守護神が多く、妙見、大黒、普賢菩薩、摩利支天、毘沙門天と回数は少ないが開帳されている。この守護神の内、鬼子母神、七面大明神を除けば居開帳であったことが特徴的である。言い換えれば、祖師は出開帳が多く守護神は居開帳が多いことが判明する。」と分析している。本稿はこれをうけ、祖師単独の開帳か他の神仏と併せての開帳かを分析することを目的とした。

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

(17) 深川浄心寺石像の上行「祈願の者多く像を水にて浴す」とあり、石像を水で浄めていることから、これは上行菩薩ではなく、浄行菩薩の誤りと思われる。

(18) 拙稿「江戸城大奥女性の法華信仰」(『大崎学報』一四六号)に、身延山久遠寺の祖師や守護神の江戸出開帳の実態と江戸城大奥女性の信仰的つながりについて検討しているので参照されたい。

(19) 『武江年表』

(20) 右同

(21) 右同

(キーワード)

祖師

守護神

流行神

開帳

(付表) 『東都歳時記』にみられる祭礼・開帳・祈願一覧(神仏別)

【祭礼】

(祖師)

五月十三日

螢沢宗林寺船守祖師会式

九月十七〜十八日

本所本仏会式

九月二十一日

谷中妙圓寺会式(千卷陀羅尼)

十月六〜七日

浅草長遠寺会式

十月七〜八日

本所本久寺会式

十月七日〜二十三日

雑司ヶ谷法明寺会式(八日開帳・音楽練供養)

支院觀乘院・女淨院・蓮光院・真淨院・知足院・清立院・宝城寺(飾物)

十月八日〜十三日

法華宗寺院御影供養法会(報恩会・お会式)

十月八日〜十三日

堀ノ内妙法寺会式(開帳)

十月十日〜十三日

池上本門寺会式

十月十二日

法華宗諸寺院御影供(お会式)

深川淨心寺(開帳)・谷中瑞輪寺(飾物)・本所法恩寺

(開帳)・青山仙寿院(開帳)・丸山本妙寺・真間弘法寺・谷中牛込の辺はお会式修行

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

十月十二〜十五日 下総中山法華経寺会式

十月十三日 法華宗御影供 品川妙国寺(開帳)・丸山浄心寺(朝の内開帳)・浅草土富店長遠寺(開

帳)・牛込本松寺願満祖師(開帳)・高田亮朝院(飾物)・赤坂今井谷円通寺・小梅常泉

寺

十月十三日〜十五日 大塚本傳寺会式

十月十六〜十七日 雑司ヶ谷感応寺会式(十六日通夜・十七日音楽稚児供養・説法)

十月十八日 雑司ヶ谷宝城寺会式

(守護神)

〈鬼子母神〉

正月十六日 雑司ヶ谷鬼子母神祭礼(法華経読誦・本尊更衣)

九月十八日 荻新田小奈木川上妙寺鬼子母神祭(開帳)

五月十七〜十九日 小柄原日慶寺鬼子母神祭(内拝)

六月十五日 雑司ヶ谷鬼子母神草薙の神事

九月十八日 荻新田小奈木川上妙寺鬼子母神祭(開帳)

九月二十七日 今明日目黒正覚寺鬼子母神祭(千卷陀羅尼修行)

〈七面大明神〉

正月十九日

橋場長松寺七面宮祭

本所押上最教寺七面祭

五月十九日

本所押上最教寺七面祭

九月十三日、十九日

大久保法善寺誦經・説法

九月十八日

日暮里延命院千卷陀羅尼・通夜説法

九月十九日

七面宮祭礼（押上最教寺（開帳）・深川浄心寺（開帳）・高田亮朝院（千卷陀羅尼・開帳）

・日暮里延命院・大久保法善寺（本尊開扉）・芝金杉円珠寺（千卷陀羅尼）

〈稻荷大明神〉

五月二十二日

浅草七軒寺町法養寺熊谷稻荷祭

七月二十五日

浅草本法寺熊谷稻荷祭

九月二十二日

深川猿江妙寿寺稻荷祭礼（千卷陀羅尼・開帳）

十一月三十日

浅草本法寺熊谷稻荷眷族祭

〈妙見大菩薩〉

正月十五日

白金妙見宮星祭

五月十五日

白金妙見宮星祭

九月十五日

白金妙見宮星祭

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

(その他の守護神)

正月十五日 山谷正法寺毘沙門祭(開帳・千卷陀羅尼修行)

三月十三日 品川南番場海徳寺淡島祭

四月六日 東葛西柴又村帝釈天祭礼(板本尊開帳・千卷陀羅尼修行・音楽・児供養)

四月 九日 日暮里修性院三十番神祭(千卷陀羅尼・児供養)

五月十一〜十七日 麻布桜田町妙善寺摩利支天祭

五月十五日 山谷正法寺毘沙門祭(開帳・千卷陀羅尼修行)

五月二十四日 本所押上普賢菩薩祭礼(開帳・十部経)

六月二十四日 浅草幸龍寺清正公祭(開帳・千卷陀羅尼)

八月 一日 雜司ヶ谷鬼子母神境内鷲明神祭礼

九月十五日 山谷正法寺毘沙門祭(開帳・千卷陀羅尼修行)

九月十九日 浅草田圃幸龍寺柏原明神祭(開帳・千卷陀羅尼修行)

九月二十三日 品川南番場海徳寺淡島祭

九月二十七日〜二十八日 南品川妙国寺仁王尊祭礼(千卷陀羅尼・音楽・児供養)

十月二十五日〜二十六日 本所法恩寺摩利支天祭

【開帳・内拝】

〈祖師〉

正月元旦

大塚本傳寺祖師

六日

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

十三日

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

十六日

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

二十一日

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

二十六日

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

正月十二、十三日

牛込円福寺祖師開帳

青山立法寺祖師開帳

正月十三日

堀ノ内妙法寺祖師開帳（正五九）

池上本門寺祖師開帳

雑司ヶ谷法明寺祖師開帳

下谷土富店長遠寺祖師開帳（正五九）

深川浄心寺祖師開帳

大塚本傳寺祖師開帳

江戸の日蓮宗の年中行事（三）（望月）

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

高田本松寺願満祖師開帳

谷中本寿寺祖師開帳

赤坂円通寺祖師開帳

雑司ヶ谷法城寺祖師開帳(正五九)

北本所本久寺祖師開帳

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

北本所表町本久寺開帳(毎月)

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

浅草矢崎本覚寺祖師開帳

青山仙寿院萬巻陀羅尼(十八日祖師開帳)

堀ノ内妙法寺祖師開帳

浅草長遠寺祖師開帳

雑司ヶ谷寶城寺祖師内拜 其の外法華寺院祖師開帳あり

浅草土富店長遠寺祖師開帳 開運の守札出す

堀ノ内妙法寺祖師開帳

浅草土富店長遠寺祖師開帳

正月十五日

正月十六日

正月二十一日

正月二十六日

四月八、十八日

五月十三日

六月 六日

九月十三日

十月六〜七日
雜司ヶ谷寶城寺祖師内拝
浅草土富店長遠寺お会式（祖師開帳）

十月十二日
深川浄心寺お会式（開帳）

谷中瑞輪寺お会式

本所法恩寺お会式（開帳）

青山仙寿院お会式（開帳）

丸山本妙寺お会式（開帳）

十月十三日
品川妙国寺お会式（祖師開帳）

丸山浄心寺お会式（祖師朝の内開帳）

浅草土富店長遠寺お会式（祖師開帳）

（日蓮宗先師関係）

〈日朝〉

正月二十五日
麻布長坂町大長寺日朝上人像開帳

〈日親〉

正月十七日
谷中妙福寺日親像開帳

五月十七日
谷中妙福寺日親像開帳

江戸の日蓮宗の年中行事（三）（望月）

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

九月十七日

谷中妙福寺日親像開帳

(法華經の菩薩關係)

〈普賢菩薩〉

正月一日

押上春慶寺普賢菩薩開帳(千卷普賢品執行)

正月二十四日

押上春慶寺開帳 十部經執事祭礼・開帳

五月一日

押上春慶寺普賢菩薩開帳(千卷普賢品執行)

五月二十四日

押上春慶寺開帳 十部經執事祭礼・開帳

九月一日

押上春慶寺普賢菩薩開帳(千卷普賢品執行)

九月二十四日

押上春慶寺開帳 十部經執事祭礼・開帳

(守護神關係)

〈鬼子母神〉

正月十八日

本所出村本仏寺鬼子母神内拝(正五九)

下谷善立寺隨身鬼子母神内拝(毎月)

四谷南寺町戒行寺鬼子母神開帳(正五九の十八・二十八日)

四月八、十八日

本所本仏寺鬼子母神 萬卷陀羅尼(八日、十二日、十八日内拝)

四月二十七日 雜司ヶ谷鬼子母神常經講中の為に年に一度の内拝

五月十七、十九日 小柄原日慶寺鬼子母神祭（内拝）

本所出村本仏寺鬼子母神内拝

本所荻新田小奈木川通上妙寺鬼子母神開帳

九月十八日 荻新田小奈木川上妙寺鬼子母神祭開帳

本所出村本仏寺鬼子母神内拝

十月八日 雜司ヶ谷法明寺法会中開帳（音楽練供養等法会）

〈七面大明神〉

正月十九日 高田亮朝院七面宮開帳・説法・千卷陀羅尼（毎月十九日は題目講）

市谷修行寺七面宮開帳

五月十九日 高田亮朝院七面宮開帳 千卷陀羅尼

九月十九日 七面宮祭礼

押上最教寺七面宮開帳

深川浄心寺七面宮開帳

高田亮朝院七面宮千卷陀羅尼・開帳

〈稻荷大明神〉

正月二十二日 浅草七軒寺町法養寺熊谷稻荷開帳・千卷陀羅尼

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

谷中大円寺瘡守稻荷開帳・千卷陀羅尼・説法

深川猿江妙寿寺稻荷開帳・千卷陀羅尼

五月二十二日 谷中大円寺瘡守稻荷社千卷陀羅尼・説法内拝

猿江妙寿寺稻荷開帳・千卷陀羅尼

九月二十二日 深川猿江妙寿寺稻荷祭礼・千卷陀羅尼修行・開帳

谷中大円寺瘡守稻荷内拝・千卷陀羅尼修行・説法

〈妙見菩薩〉

正月十五日 柳島法性寺妙見宮開帳(毎月千卷陀羅尼)

新島越安盛寺妙見宮内拝・千卷陀羅尼

深川浄心寺開帳

五月十五日 柳島法性寺妙見宮開帳

五月十五日 新島越安盛寺妙見宮内拝・千卷陀羅尼

六月一日 本所柳島妙見宮開帳

六月十五日 柳島妙見宮開帳(別当法性寺)

六月十五日 白山権現裏門通り妙傳寺妙見宮開帳

九月一日 本所柳島妙見宮開帳

九月十五日 柳島妙見宮開帳

新鳥越安盛寺妙見宮内拝

山谷正法寺毘沙門祭開帳・千卷陀羅尼修行

〈その他の守護神〉

正月十五日

山谷正法寺毘沙門祭開帳・千卷陀羅尼

正月十九日

浅草幸龍寺柏原明神開帳 千卷陀羅尼

四月六日

東葛西柴又村帝釈天祭礼(別当題経寺)・板本尊開帳・千卷陀羅尼修行・音楽・児供養

五月十五日

山谷正法寺毘沙門祭開帳・千卷陀羅尼

五月十九日

浅草幸龍寺柏原明神開帳 千卷陀羅尼

九月十五日

山谷正法寺毘沙門祭開帳・千卷陀羅尼

九月十九日

浅草幸龍寺柏原明神開帳 千卷陀羅尼

【祈願】

(祖師)

正月二十四日

雑司ヶ谷寶城寺(祈雨の祖師)千卷陀羅尼・説法

四月八日・十七日

高田本松寺(願満祖師)百部経

四月八日・十八日

青山仙寿院萬卷陀羅尼(十八日祖師開帳)

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

五月二十四日 雑司ヶ谷寶城寺(祈雨の祖師)千卷陀羅尼・説法

九月十三日 高田本松寺(願満祖師)千卷陀羅尼

土用中丑日 高田本松寺(願満祖師)ほうろく加持

九月二十一日 谷中三崎妙圓寺会式・千卷陀羅尼

九月二十四日 雑司ヶ谷寶城寺(祈雨の祖師)千卷陀羅尼・説法

(法華經の菩薩)

〈普賢菩薩〉

正月一日 押上春慶寺普賢菩薩開帳 千卷普賢品執行

五月一日 押上春慶寺普賢菩薩開帳 千卷普賢品執行

九月一日 押上春慶寺普賢菩薩開帳 千卷普賢品執行

(守護神)

〈鬼子母神〉

正月八日 本所本仏寺鬼子母神千卷陀羅尼

正月八日・十八日・二十八日 目黒正覚寺鬼子母神千卷陀羅尼修行

四月八日・十八日 本所本仏寺鬼子母神萬卷陀羅尼(八日・十二日・十八日内拜)

五月八日・十八日・二十八日 目黒正覚寺鬼子母神千卷陀羅尼修行

五月十八日・二十八日 雜司ヶ谷鬼子母神堂千部（十八日萬卷陀羅尼修行）

九月八日・十八日・二十八日 目黒正覚寺鬼子母神千卷陀羅尼修行

九月十八日 雜司ヶ谷鬼子母神堂萬卷陀羅尼修行

九月二十八日 入谷鬼子母神千卷陀羅尼

九月二十七・二十八日 目黒正覚寺鬼子母神祭・千卷陀羅尼修行

〈七面大明神〉

正月十九日 高田亮朝院七面宮開帳・千卷陀羅尼

本所押上最教寺七面宮祭礼・千卷陀羅尼

正月十九日・二十三日 浅草新寺町正覚寺七面宮説法・千卷陀羅尼

五月十九日 高田亮朝院七面宮開帳・千卷陀羅尼

本所押上最教寺七面宮祭礼・千卷陀羅尼

九月十九日 芝金杉圓珠寺七面宮千卷陀羅尼修行

高田亮朝院七面宮千卷陀羅尼・開帳

日暮里延命院七面宮（十八日の夜、千卷陀羅尼通夜説法）

〈稻荷大明神〉

正月二十二日 深川猿江妙壽寺稻荷開帳・千卷陀羅尼

江戸の日蓮宗の年中行事(三)(望月)

谷中大円寺瘡守稻荷社千卷陀羅尼・説法

五月一日〜二十二日 浅草本法寺熊谷稻荷萬卷陀羅尼

五月二十二日 谷中大円寺瘡守稻荷社千卷陀羅尼・説法内拝

深川猿江妙寿寺稻荷祭礼・千卷陀羅尼修行・開帳

九月二十一日 谷中大円寺瘡守稻荷内拝・千卷陀羅尼修行・説法

九月二十二日 深川猿江妙寿寺稻荷祭礼・千卷陀羅尼修行・開帳

谷中大円寺瘡守稻荷内拝・千卷陀羅尼修行・説法

九月二十二日〜十一月二十八日 浅草八軒寺町本法寺熊谷稻荷社(二十二日千卷陀羅尼)、二十二日より切手を出し、十二月一日より守札を出す

〈その他の守護神〉

正月十九日 浅草幸龍寺柏原明神祭開帳・千卷陀羅尼

五月十九日 浅草幸龍寺柏原明神祭開帳・千卷陀羅尼

八月六日〜十五日 中延法蓮寺八幡宮萬卷陀羅尼・説法

九月十九日 浅草幸龍寺柏原明神祭開帳・千卷陀羅尼

九月二十七日〜二十八日 南品川妙国寺仁王尊祭礼・千卷陀羅尼・音楽・児供養

〈その他〉

二月十二日〜二十一日 牛込原町幸国寺千部(九日説法・十六日誕生会・二十二日施餓鬼)

三月九日 中山法華經寺千部

三月九日～十六日 深川淨心寺千部

三月十三日～二十二日 下谷宗延寺法華經千部修行・開帳（二十三日音楽・兒供養・放生会）

三月十九日～二十八日 池上本門寺法華經千部・開帳音楽

五月十八日～二十八日 雜司ヶ谷鬼子母神堂千部（十八日萬卷陀羅尼）